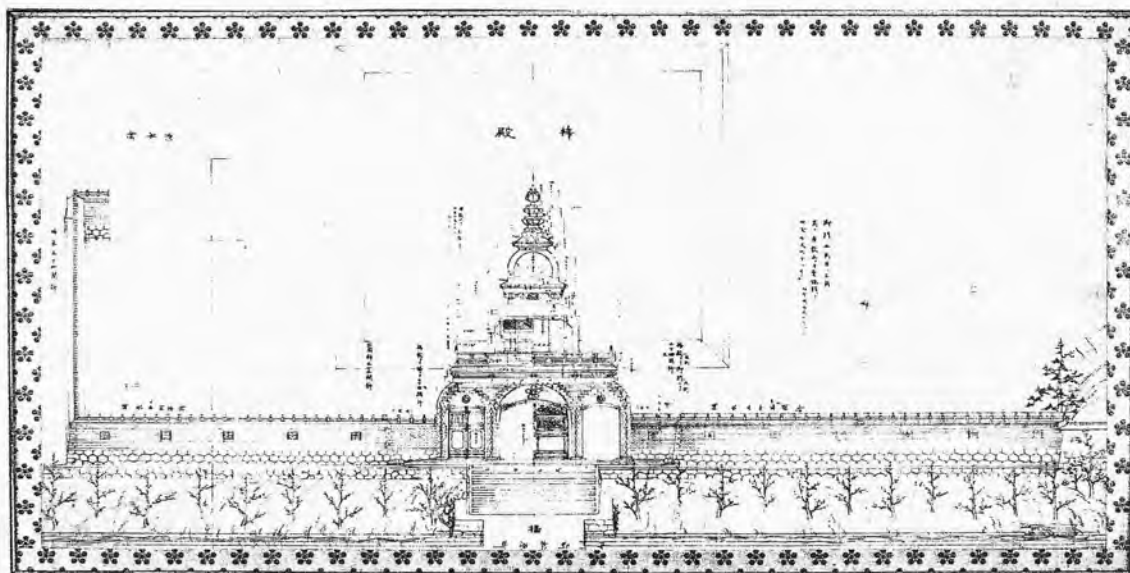


平成16年度

玉川図書館近世史料館夏季展示

絵図に見える 金沢の寺社

平成16年6月22日（火）～ 8月8日（日）
近世史料館 1階展示室



〒920-0863 金沢市玉川町2-20
金沢市立玉川図書館近世史料館
電話 076-221-4750

夏季展「絵図に見える金沢の寺社」

天徳院・経王寺・宝円寺・如来寺など、藩主前田家と関係が深い小立野寺院群。
禅宗・浄土宗・日蓮宗など、武士・町人の檀家を多くかかえた卯辰山・寺町寺院群。
そして市中に点在する多くの浄土真宗寺院。

多様な仏教寺院を、関係のある絵図で展示します。

また金沢市内の神社に関する当館所蔵品をいくつか展示します。金沢の近代建築の代表ともいえる尾山神社神門の設計原図。近年、学問の神様として賑わいを見せる金沢神社の昔の姿。また金沢市中の崇敬を集めてきた金沢五社（小坂神社、安江八幡宮、宇多須神社、椿原天満宮、神明宮）の資料など。



「延宝年間金沢城下図」より寺町付近

展 示 品 解 説

お やまじんじゃしんもんげん ず
金沢市指定文化財「**尾山神社神門原図**」 56×116cm

明治5年(1872)金谷御殿跡地に尾山神社が建立された。

神社の神門は金沢の大工棟梁・津田吉之助が基本設計を行い、明治8年(1875)に工事は完了した。

上層部の形状など設計図と現神門とは多少の違いはあるが、和洋折衷の奇抜なデザインとなっている。正面図だけでなく拝殿などの平面図(上から見た図)を重ね書きした立平面図からなっている。この図は津田家から昭和34年に金沢市へ寄贈されたものである。

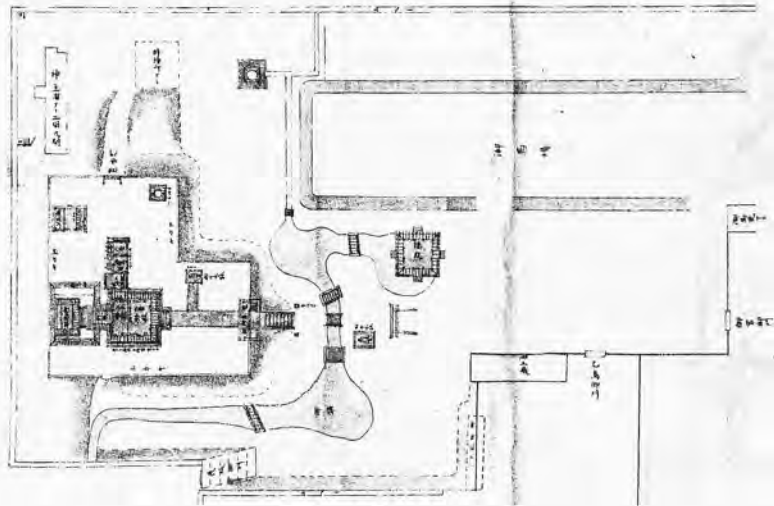
※ このパンフレット表紙に画像コピー

資料番号 (090-0)

ごちんじゆこえず
御鎮守古絵図

75×51cm

現在の金沢神社である。12代藩主前田^{なりなが}斉広が造営した竹沢御殿の鎮守として文政年間に創設された。明治初め兼六園の一般開放にともない一般の参詣が許された。当初、竹沢御鎮守と称されたが明治7年に金沢神社と改称。今のように学業成就の神として広く崇敬されたのは昭和後期からだと言われる。
(090-610②)



う たつかんのんいんけいだい ず
卯辰観音院境内図

81×76cm

藩政時代、藩主の祈願所、また町人の娯楽の場として栄えた真言宗の寺院である。卯辰山山麓の長い階段の上に建物があり、能舞台・楽屋が描かれている。上方には山王社、朱色の三重の塔があった。

(大友 1039)

てんとくいん え ず
天徳院絵図

73×53cm

前田利常正室・珠姫の菩提寺として元和2年(1623)に建立されたのが天徳院で、寺号は珠姫の法号による。絵図の内容から天保10年以後の法要が行われた時のもの。陽広院(4代光高^{みつたか})、天珠院(9代重靖^{しげのぶ})、観樹院(10代重教次男齋敬^{しげみち なりたか})廟所が見えるが、現在は全て野田山へ移された。

『金沢市史』資料編18「絵図・地図」別刷17に複製がある。

(特 16. 61-297②)

によらいじ え ず
如来寺絵図

(文政13年) 50×56cm

前田利常・珠夫妻が、徳川家康・秀忠の位牌所として重視したため、前田家から特別な保護を得た。浄土宗の触頭として藩と密接な関係にあった。この絵図は文政7年の法要記述を、文政13年(1830)前田図書貞事が書写したものである。

(特 16. 61-293)

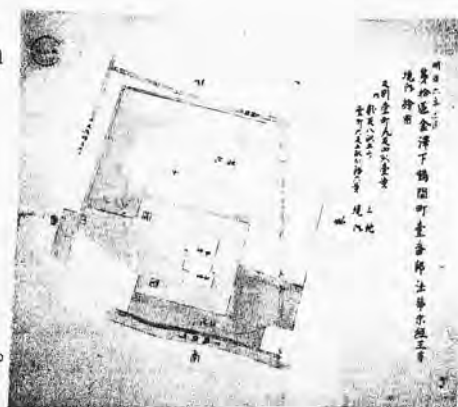
きょうおうじけいだいず
経王寺境内図

(明治6年) 40×56cm

前田利常の生母・寿福院の祈願所として保護され日蓮宗の触頭として重きをなした。現在の建物は近年の再建。延宝年間金沢城下図などを見ると隣接する天徳院・如来寺のような、広大な敷地を有していたことがわかる。

『寿福山経王寺誌』(平成14年刊)が詳しい。

(特 16. 61-301)



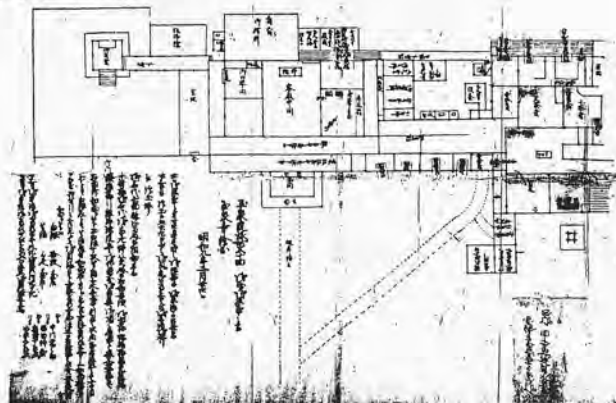
ぎよくせんじえず
玉泉寺絵図

(文政5年) 53×78cm

2代前田利長の正室・玉泉院の菩提寺として建立された時宗寺院。現在も野町小学校に近い六斗広見よこに立地しているが、近世での玉泉寺の境内は現在よりずっと広大であった。この絵図は明和9年(1772)の玉泉院150回忌の際の間取り図。

『金沢市史』資料編13「寺社」370、376頁に掲載がある。

(特 16. 16-340)



かなざわまち え ず
金沢町絵図

② 野町

29×195cm

(090-1034②)

犀川大橋から北國街道を南に向かう両側町の図。神明宮や、浄土宗・大蓮寺、真宗・因徳寺、真言宗・千手院、真宗・光専寺が見える。当館刊行の金沢市立図書館叢書2『金沢町絵図』(5000円)ではカラー掲載。真っすぐのびた町並みが印象的である。



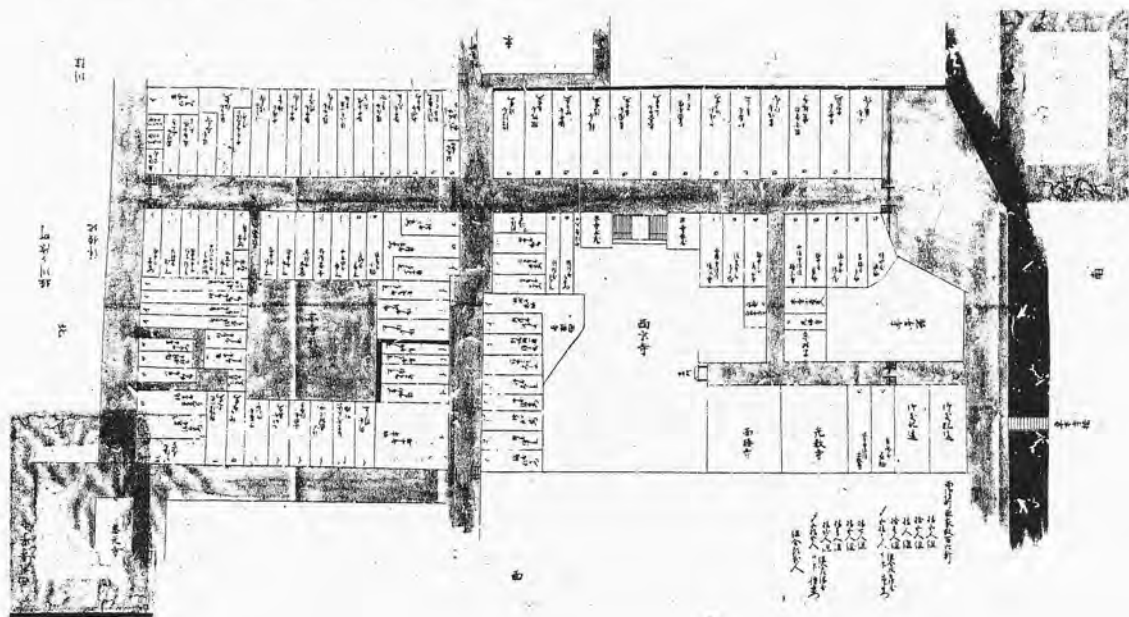
かなざわまち え ず
金沢町絵図

⑩ 西御坊町

55×101cm

(090-1034⑩)

西御坊とは、今日の西本願寺金沢別院のことであるが、触頭である照円寺を中心に本願寺派寺院が集中している。



えんぼうねんかんかなざわじょうかず
延宝年間金沢城下図

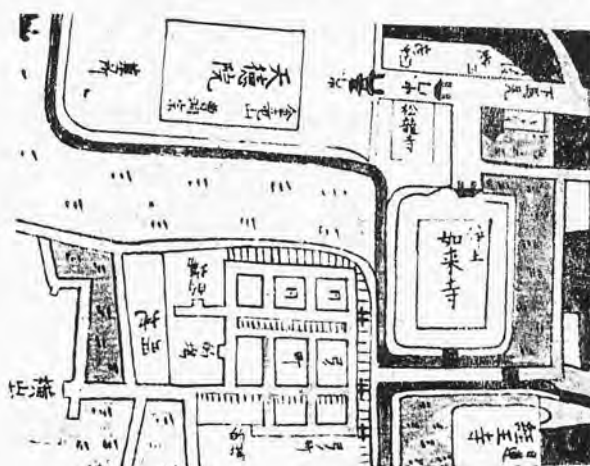
(090-598)

石川県立図書館所蔵の原本を、大正2年、氏家栄太郎氏が書写したもので、文字が読みやすく、色彩も豊かで、城下の寺院・神社の配置などが理解しやすい。各種複写可能。

かようきんぷぶしまちさいけんず
加陽金府武士町細見図

部分拡大 (特 10.0-73)

加賀藩の軍学者・有澤武貞が、享保19年、金沢城下の武士の居住地を描いた写本。分割絵図が冊子になっており、各寺社分布が分かりやすく、また代表的な寺院群を俯瞰するのに適切な部分があるため、適宜参考資料とした。



【金沢市内の寺院数の変遷】

寺院数・ 神社数	平成13年 (2001年)	大正6年 (1917年)	明治13年 (1880年)	文政3年 (1820年)	貞享2年 (1685年)
天台宗系	12	7	8	15	15
真言宗系	28	18	22	27	24
臨済宗系	8	7	9	11	9
曹洞宗	58	44	45	51	57
浄土宗系	25	21	24	23	24
浄土真宗系					
(西)	17	15	18	8	7
(東)	192	85	84	65	57
(他)	1				
時宗	1	1	1	1	1
日蓮宗系	54	46	50	60	52
神社 (神道系)	335				

※『金沢市史』資料編13「寺社」および金沢市統計書(平成15年3月刊)により作成。